

公益社団法人国際演劇協会（ITI/ユネスコ）日本センターは、ユネスコ傘下の国際組織である国際演劇協会 ITI (International Theatre Institute) 加盟の公認団体です。ITI は世界平和と相互理解の促進を希求するユネスコ憲章の精神に基づいて、演劇による国際交流の増進を目的に 1948 年創設され、本部はパリのユネスコ本部内に置かれ、現在約 100 の国と地域が加盟しています。

公益社団法人 国際演劇協会 (ITI/ ユネスコ) 日本センター



*Japanese Centre of  
International Theatre Institute / UNESCO*

I.T.I. NEWS 2014.1.31. No.124

# 演劇舞踊文化の発展と 平和構築への貢献を

## —新・公益社団法人として

2014 年、新しい年が始まりました。皆様には長らくお待たせいたしましたが、昨年 7 月をもって旧社団法人国際演劇協会は「新公益社団法人」として再スタートを切ること



ITI 国際演劇協会  
日本センター会長  
永井 多恵子

となりました。新公益法人は、例外なく「特定公益増進法人」となり、税制上の優遇が受けられるようになっています。この間の事務局の努力に感謝したいと思います。

新法人の 18 名の理事は、平成 24 年 11 月の（旧法人）総会で一人ずつ個別議決を受けて選任され、新法人発足後の昨年 7 月に開催された第一回理事会において、代表理事の中から会長（永井）、副会長（安孫子正、吉岩正晴）が選任されました。

今後の当センターの活動のさらなる充実のため、活動の趣旨に賛同し支えていた会員の增加が喫緊の課題となっています。皆様の知人関係者の方々への入会をご勧誘いただきま

になりました。  
2 万 4 千余の旧公益法人（社団法人・財団法人）のうち、そのうちの 9,054 法人が新公益法人（公益社団法人・公益財団法人）

新体制後は従来からの「国際演劇年鑑」などに加え、より多彩な事業を行います。また、昨年 11 月

からホームページもリニューアルしました。ぜひ、ご覧いただきたいと思います。

国際文化交流の上でひとつ朗報があります。この 4 月から国際交流基金に「文化の WA (和・環・輪) プロジェクト」として総額 300 億 2 千万円が予算計上されます。舞台芸術・美術などを通じての日本文化の紹介などが含まれます。また、補正予算として芸術・文化の双方向交流事業などの強化としてアジアセンターを設立、先ずはアセアン諸国との交流を中心に行うと加していくべきだと思います。

今後の当センターの活動のさらなる充実のため、活動の趣旨に賛同し支えていた会員の增加が喫緊の課題となつております。皆様の知人関係者の方々への入会をご勧誘いただきま

く、よろしくお願い申し上げま

I.T.I.日本センターは、平成23年度の通常総会以来、新公益法人への移行をめざして準備を進め、平成24年度の臨時総会（11月）の決議を受けて平成25年1月に移行申請書類を内閣府に提出しました。平成25年度は、移行認定（6月21日）、移行登記（同7月1日）と並行して、旧法人としての最後の総会（6月）並びに新法人となつてから最初の理事会（7月）を開催しました。総会、理事会の主な内容は次の通り。

## I.T.I.日本センター平成25年度通常総会（6月）報告

平成25年度通常総会議事録から抜粋

日時 平成25年6月22日（土）11時より

会場 松竹株式会社大会議室（東劇ビル10階）

会員現在数 215名

出席者 128名（総会は成立）。（委任状

提出者105名を含む）

出席会員 23名 青柳敦子、安宅りさ子、

安孫子正、伊藤（舟本）巴子、伊藤 洋、

大島信久、小田切洋子、川口啓史、小林弘

文、斎明寺（関根）以玖子、真藤美一、曾

田修司、高萩 宏、高橋幸夫、永井多恵子、

中山夏織、林 英樹、前田真里衣、松下芳江、

宗重博之、吉井澄雄、吉岩正晴、和崎信哉

オブザーバー 越光照文

配布資料 平成25年度通常総会議案書（頁  
1～14）

第1号議案 平成24年度事業報告に関する  
討議、承認

第2号議案 平成24年度決算報告、同監査  
報告に関する討議 承認

第3号議案 平成25年度事業計画案の討  
議、承認

第4号議案 平成25年度收支予算案の討  
議、承認

議論の経過と結果 第1号、第2号議案につき、平成24年度事業報告書案（議案書頁1～6）に基づき、同年度に実施した事業の概要について、事務局から報告がなされた。次いで、同決算報告書（頁7～12）に基づき、平成24年度決算案の報告がなされた後、監事の舟本巴子氏より、監査報告がなされた。これを見て、事業実施に関する

複数会員より、会員数の拡大に取り組むべきとの意見が出された。以上の質疑の後、事業報告及び決算報告、監査報告について全員一致で了承された。

第3号、第4号議案については、平成25年度期首に先立つて平成25年3月23日の理事会で討議・承認された当初事業計画及び当初予算をもとに、その後の状況変化を反映した改訂版の事業計画、收支予算が提案され（議案書頁13～14）、第3号議案、第4号議案は異議なく承認された。

報告事項 その他事項として、総会開催の前日である6月21日に内閣府より公益社団法人への移行について認定通知が届いたこと、新法人の登記については7月1日に行う予定であることについて報告があり、会員の異動に関する報告とともに了承された。

## （公益社団法人）国際演劇協会日本センター 第1回理事会報告

新法人の発足（7月1日登記完了）後、  
第1回の理事会が、次のように行われた。

日時 平成25年7月7日（日）午前11時  
— より

会場 松竹株式会社 中会議室（銀座・東  
劇ビル13階）

フォーラム、フェスティバル、イベント等  
**海外ニュース**

タイトル / 都市・国 / 日時 / 主催者 / コンタクト

◇フォーラム「現代のドラマについて」  
アテネ / 2014.5月 / I T I ギリシャセンター

◇「トレーニングからクリエーションまで」  
フランス、トルコ / 6.23 ~ 10.31 / イデオグラム・プロジェクト（フランス）/  
<http://ideogramproject.com> / 584 時間の  
トレーニングの後、7作品を創作・発表、  
演劇アーティストのプロとしての可能性を  
伸ばす試み。

◇第18回国際古代ギリシャ劇フェスティバル キプロス / 2014.6月 / ITI キプロス  
センター / オリジナルテキストをベース  
に古代ギリシャ劇の研究と上演 / <http://www.cyprus-theatre-itl.org/English.html>

◇第8回 ユニオンと和平国際演劇・造形  
ビエンナーレ ンジャメナ、チャド / 11.3  
~ 10/ITI チャドセンター / [themacult@yahoo.fr](mailto:themacult@yahoo.fr), [themacult@gmail.com](mailto:themacult@gmail.com) / 優秀2作品は  
チャドおよび中央アフリカ共和国の国  
営TVで放映される。

◇第4回 キャンパスシアター・フェスティバル 上海 / 11.8 ~ 22/ITI 中国センター/  
[ctawangling@163.com](mailto:ctawangling@163.com) 1国2~3の演  
劇学校の優秀作を招待（作品は総勢40名  
未満、小品は12名まで）、滞在費・国内  
旅費支給。

◇刊行「世界のセノグラフィー 1975-  
1990」 英語版、OISTAT 国際編集委員会  
\$ 60.00。続編 1990-2005 は今春刊行  
予定。 <http://www.worldscenography.org>

◇訃報

ポール・ルイ・ミニヨン氏 (1910 ~  
2013.11.16) / ITI 初代会長、ITI フランス  
センター創設者、演劇評論家、シャルル・  
デュランヒルイ・ジューヴェの研究書多数。  
創設期の ITI の功労者。

アハメド・ザキ氏 ( ~ 2013.11.20) / 前  
ITI エジプトセンター会長、演出家。

バロン・ジャンヌ・ブラバン氏  
(1920.1.25 ~ 2014.1.2) / コレオグラ  
ファー。フランドル・オペラバレエ団で教  
鞭をとりその後アントワープ王立バレエ創  
設、ディレクター。ベルギー舞踊界のパイ  
オニアとして活躍。

理事現在数	18名
出席	安宅、伊藤（洋）、大笛、小田切、 斎明寺、真藤、曾田、永井、永江、中山、林、 菱沼、吉岩（以上、理事13名）、伊藤（巴）、 小林（監事2名）
欠席	安孫子、坂手、高萩、松田、和崎（理 事5名）、吉井（監事1名）
議案	

第1号議案	会長・副会長の選任について 当法人（公益社団法人国際演劇協会日本 センター）の最初の代表理事として平成24 年度臨時総会で選任された理事3名（永井 多恵子、安孫子正、吉岩正晴）のうち会長 を永井多恵子、副会長を安孫子正、吉岩正 晴の両名とする案が提案され、全員一致で 了承された。
第2号議案	基本財産の一部を運用財産に 変更する件について 定款第四十五条の規定にもとづき、当法 人の基本財産である二種の定期預金のうち 一方を解約し、普通預金口座に移管して運 用財産とすることについて、会長より提案
第3号議案	諸規程の制定について（確 認）

その他	し理事全員が了解した。該当する口座、金 額は以下のとおり。 みずほ銀行 築地支店 定期預金 口座番 号 1607875 10,467,328 円
第3号議案	諸規程の制定について 当法人の運営にあたり必要な諸規程の整 備のため、以下の規程規則を制定した。（平 成25年7月7日施行）
その他	事務局運営規程／会計処理規程／就業規則 ／印章管理規程／個人情報保護に関する基 本方針／個人情報管理規程／情報公開規程 ／理事の職務権限規程／資産運用規程／受 託事業取扱規程／事業委員会規程

# 演劇の国際交流事業や 青少年育成事業に実績



紛争地域から生まれた演劇『修復不能』の舞台  
(2013年12月、東京芸術劇場アトリエウエストで)

## I.T.I.日本センター 事業報告 2013

I.T.I.日本センターは、ユネスコ傘下の国際組織ITIの日本センターとして、演劇や伝統芸能を通じた国際交流事業や青少年の育成事業に取り組んでいます。継続的に実施している事業には、文化庁からの委託事業である『国際演劇年鑑』の編集・発行、これまでに24回を数える『伝統芸能ワークショップ』があります。

近年では、上記年鑑の特集企画として、リーディング＆ラウンドテーブル『紛争地域から生まれた演劇』を毎年実施している他、朗読劇『この子たちの夏』公演、劇場との共催によるレクチャー「海外で活躍するプロフェッショナル」シリーズ、『世界の同時代演劇を知る』などを開催してきました。2013年は、それらに加え、海外で『春琴シンポジウム』を実施したほか、高校生対象の『高校生劇評グランプリ』をスタートさせました。

◇新企画 「海外で活躍するプロフェッショナル」シリーズ……5  
◇『この子たちの夏』 1945・ヒロシマ ナガサキ』……6

◇伝統芸能ワークショップ 『能』……7

◇シンポジウム「春琴——谷崎文学と舞台芸術の国際共同制作をめぐつて」(米ミシガン大学)……10

◇レクチャーシリーズ「世界の同時代演劇を知る!」……11  
◇新企画 高校生劇評グランプリ……12

◇紛争地域から生まれた演劇……13

東京芸術劇場、世田谷パブリックシアターと共催で新スタート

して生きるためのさまざまなことを語つて下さいました。

## 「海外で活躍するプロフェッショナル」シリーズ

今年度から新たなプロジェクトとして「海外で活躍するプロフェッショナル」シリーズが始動し、東京芸術劇場（公益財団

法人 東京都歴史文化財団）と世田谷パブリックシアター（公益財団法人せたがや文化財団）とそ

れぞれ共催で昨年7月15日と29日の2回開催しました。

第1回は、ドイツから女優の原サチコさんをお招きしました。

『原サチコのぶっちゃけドイツ演劇話』公立劇場専属俳優としてしぶとく生き抜く」というタイトル通りのお話でした。

憧れの演出家と出会うために、あらゆる人に「会わせてくれ」と懇願、ついに願いを果たし、作品出演へのチャンスをつかんだことや、年度ごとに交わす劇場との契約、芸術監督の交代に伴う移籍など、日本とは違う劇場

幼少時代のお話、パリでの暮らしぶり、ピーター・ブルックとの出会いや、その創作現場での貴重な経験を伺いました。また、オペラの演出もなさる笈田さんの音楽についてのお考えなどもお話し下さいました。

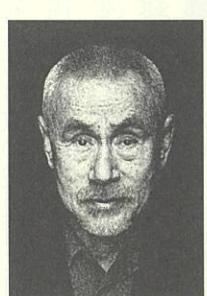
どちらの回も沢山の方々にご参加いただき、盛況の内に終えられました。（事務局・壱岐照美）



### 第1回『原サチコのぶっちゃけドイツ演劇話 ——公立劇場専属俳優としてしぶとく生き抜く』



### 第2回『笈田ヨシ 傘寿『俳優漂流』を語る』



笈田ヨシさん

盛況の会場（世田谷パブリックシアターセミナールームで）

原サチコさんの「ぶっちゃけドイツ演劇話」（東京芸術劇場シンフォニースペースで）

# JKA 「親と子のふれあい交流活動補助事業」 『この子たちの夏』 1945・ヒロシマ ナガサキ』

今年度も8月に『この子たちの夏 1945 ヒロシマ・ナガサキ』が上演されました。1985年以来、世代を超えて戦争の記憶と体験を語り継ぐために長く上演が続けられて来たものです。当センターが主体となり、いつたん中断していた上演を再開(2011年)して以来、今年で3回目を迎えました。



よい作品を、新しい観客に伝えたい



1985年以来上演が続けられている『この子たちの夏 1945・ヒロシマ ナガサキ』の舞台

東京公演は公益財団法人JKAの「親と子のふれあい交流活動補助事業」として実施されました(提携)。公益財団法人せたがや文化財団、世田谷パブリックシアター、後援)世田谷区、協賛)日本たばこ産業株式会社。

多くの子どもたちに見てほしい——当センターの願いは、当センターの事業委員会で『この子たちの夏』事業評価委員会を特別に開催し(9月14日)、メンバーである各理事の意見と青少年創造劇場ピッコロシアターなどの地方公演でたくさんの方々に迎えられました。良作を求める自治体や公立劇場側の期待に応え、事前の丁寧な対話をを行いながら上演を行つていくことによって「よい作品を新しい観客に」伝える可能性を広げることができました。

## 英語のイヤホンガイド

昨年度から導入している英語イヤホンガイドの効果が現れ、大使館をはじめとした外国人の観客も増加している実績を踏まえ、今後は、被爆者、犠牲者の受苦という視点だけではなく、

時代を知るための準ドキュメンタリー作品として、また国際間の対話促進の素材として、平和や教育という観点からも上演を意味づけたいと考えています。

この報告は、JKA補助事業の「自己評価」の実施にあたり、当センターの事業委員会で『この子たちの夏』事業評価委員会を特別に開催し(9月14日)、メンバーである各理事の意見と専門的知見を聴取して作成した評価報告書に基づきました。

## 東日本大震災に義援金

また、昨年一昨年に続いて東京公演(世田谷パブリックシアター)の終演後にロビーにて東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の被災者に対する義援金を募集し、総額6万3千円を、あしなが育英基金、たまきはる福島基金、福島県東日本大震災ふくしまこども寄附金の3団体に均等に寄附しました。

(事務局長 曽田修司)

たくさんの子どもたちに  
迎えられた能登演劇場

文化庁委託事業

## 伝統芸能ワークショップ 『能』

伝統芸能ワークショップ

『能』が8月22日から30日

までの9日間、東京（青山）

までの9日間、東京（青山）  
の鍊仙会能楽研修所で開催

された。I.T.I.日本セン

ターが日本文化の理解と普及のために外国人を対象としたワークショップを実施し始めたのは1987年。

98年以降は対象を外国人に限らず、舞台芸術を実践する人たちの基礎の素養のために参加の門戸を開き、国籍を問わない混成クラスの形で毎年夏の恒例事業と

なって内外ともに高い評価を得てきている。

### 6カ国26人の受講生

今回の『能』は、伝統芸能

ワークショップとしては通算24回目、文化庁の委託事業となつてから2回目の催しである（委託事業として採り上げられた1回目は、11年の『日本舞踊』）。

鍊仙会のシテ方の先生方11人と6カ国26人の受講生が、猛暑の中、連日朝の10時から午後5時半まで、集中的に『羽衣』をベスにして稽古。その間、休憩は

落者もなかつた。青山といふヨーロッパブランドのブティック街を横目に一步門を入れば、4階建ての鍊仙会の建物は9日間すべてI.T.I.ワークショップ一色に染まつた。

今回のワークショップの文化のシテ・天人の役へと変身してゆくプロセスを間近に見学、その無駄のない凛とした一連の装束つけの動作に圧倒される。

### 「本物」に接する意義

## 名曲『羽衣』を教材に

東京・青山の鍊仙会能楽研修所で



挨拶する観世鍊之丞師

が洋の東西を問わずあらゆるパフォーミングアーツに通用する最重要課題です、とのことで、物語性と舞踊性の両面を持つ能の演目『羽衣』を教材に使うことに、ひとりの脱ととなつた。

初日、鍊仙会の本舞台での開講式。その後、受講生はまず、1人の先生が他の3人の先生方の介助で装束と面を着け『羽衣』のシテ・天人の役へと変身してゆくプロセスを間近に見学、その無駄のない凛とした一連の装束つけの動作に圧倒される。

そしてそのシテが4人の先生方の地謡で舞う実際の『羽衣』の演技と舞いの美と迫力に、一同はさらに圧倒された様子。これから始まる毎日のワークショップで学ぶ前に「本物」に接することができたことの意義は大きかった。

研修の場所は本舞台と2つの研修室である。1コマ2時間で

# 本舞台で充実の9日間



装束を着けて記念撮影



「カマエ」の練習



「序の舞」の稽古

受講生は3つにグループ分けされて、この3箇所を毎日必ず経験する。つまり、1日1回は誰でも皆、能舞台で必ず稽古が出来ることになる。この体験も大いにプラスになった。そして、能舞台では必ず一対一で直々に鍊之丞師の指導を受ける。

ワークショップ後半の午後の1コマに、幽玄能と修羅ものから1役ずつを受講生2人がモデルとなつて面・装束つけの体験授業があり、鍊仙会所蔵の重文クラスの貴重な面の数々を拝見

1日3コマ（午前1、午後2）、の2コマでは古事記の一部と「マクベス」の1場面をもとに、2人ずつ組んで発声し動いてみることになる。この体験も大いにプラスになった。そして、能舞台では必ず一対一で直々に鍊之丞師の指導を受ける。

能の「立つ・運ぶ」は単純に舞台に立つて歩くのではなく、立つとは、目に見えない力で前後左右上下のあらゆる方向から無限に引っ張られてその均衡の中に立つことで（これが力

能の「立つ・運ぶ」は単純に舞台に立つて歩くのではなく、立つとは、目に見えない力で前後左右上下のあらゆる方向から無限に引っ張られてその均衡の中に立つことで（これが力）、「カマエ」、それは周囲に無限の気

する機会を得、また、別の午後「マクベス」の1場面をもとに、2人ずつ組んで発声し動いてみて、『羽衣』で学んだ基礎を比較する座学の授業があつた。

## 「立つ・運ぶ」の表現術

（これがハコビ）故に、これも前後左右上下にふれ動くことなく持続して美しく流れる線の組み合わせを舞台に描く、これが演技表現の根幹をなし、それに呼応の調節、呼吸の強さと整え方も密接に関係してくる――

といった都度都度の説明は、能の理解だけでなくさまざまなもの理解だけでなくさまざまなかまエ）、それは周囲に無限の気

迫を発しながら立つことでもある。

ことである。そこに無駄のないエッセンシャルなフォルムを発見するから感動が伝わるのである。

## 「平和礼賛」の名曲

『羽衣』はまた、平和主義を伝える曲だ。天人が衣を返して欲しいと頼むと、人間は私欲から自分が見つけたものだからと言つて、返そうとしない。だが、ついに人間は天人の事情をよく分かり、返すについての条件を出す。舞いを見せてくれれば、と。数百年前の能で表現された「契約」である。こ

こでまた衣が先か舞いが先かの問題になるが、ここで有名な「疑いは人間にあり、天に偽りなきものを」という天人の強いメッセージで、言い争うことなく話し合いで「信頼」が成立して、天人は手許に戻った衣を纏つて「東遊」の舞いを披露し

集合写真提供 Nasu 稽古風景撮影 藤井亜紀

ながら天界へ帰つてゆく。  
キリの舞いの詞章では「舞いながらやがて国土が繁栄するよう種々の寶を限りなく降らせし給うて、世に平和が満ちる」とある。『羽衣』は平和を謳歌する作品なのである。

ワーケシヨップが一段落したところで受講生に聞いてみた。中国には「天人散花」という古典舞踊があり、京劇や昆劇の舞台で見ることができるそうである。美しい衣を纏つた天人が池の畔に降りてくると辺りは

花と妙なる音楽に満ち、天人は優雅な舞を一差し舞つた後、やがて天に帰つてゆくというものである。

ヨーロッパにも人の形をした異界からの存在が言い伝わっているが、日本の『羽衣』の天人のように「善」ではない。「ローレライ」も然りである、とのことで、『羽衣』の平和礼賛は素晴らしいと衆議一決した。『羽衣』を通して、自分たちの「平和」への希求を確かなものとし

て受け止めたに違いない。

### 最終日に公開発表会

内容の濃い9日間であつた。

最終日はその成果を問う公開発表会である。受講生全員が仕舞

中国1、韓国3、ドイツ1、ポーランド2) 日本から18名の合計

26名、見学者5名。会場を9日間提供して下さった鍊仙会能楽研修所と観世鍊之丞師はじめシ

テ方の先生方(清水寛二、西村

高夫、柴田稔、馬野正基、浅見

慈一、北浪貴裕、長山桂三、谷

本健吾、鵜沢光、安藤貴康の諸

師)と笠井賢一氏に、心より感

謝致します。通訳のマーク・大

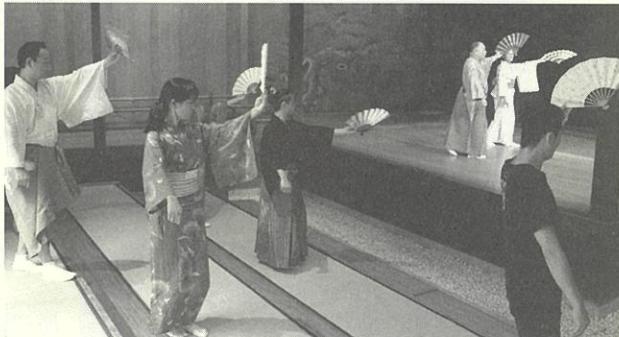
島、ジェームス・ファーナー両

氏、ありがとうございました。

## 観世流・鍊仙会の好指導



「ハコビ」の練習



稽古を見ながら見所で稽古

幕を閉じた。同じ演目が続く変化の少ないプログ ラムにも拘わらず、オーディエンスの目が舞台に釘付けになっていたのは、先生方の見事な謡いと受講生たちの舞とが創り出す舞台空間の「気」の芸術ともいえる緊迫した美によるのであろう

## ——日本センター、日米カルチャーラル・トレード・ネットワークの共催で シンポジウム「春琴」——谷崎文学と舞台芸術の国際共同制作」

2013年9月、ミシガン州アナーバー市のミシガン大学のパワー・センターで、サイモン・マクバーニー演出の『春琴』が上演された。公演に合わせて企画したシンポジウムは、同大学

の日本研究センターの多大な協力を得て、非常に充実した内容となつた。

パネリストは、現在ハワイ大学で教鞭をとるケン・K・イトウ教授（元同センターのディレクター）、カナダのヴィクトリア大学のM・コーディー・ホールト教授、そして『春琴』初演時から出演してきた笈田ヨシ氏の3名。

### 多角的な考察

最初に谷崎文学の研究家イトウ教授が『春琴抄』とトマス・ハーディの小説 "Barbara of the House of Grebe"との関連について、多様な「アダプテーション（改作）」の概念を紹介し、



9月19日、ミシガン大学ハーファン・ハッチャー図書館にて（壇上はズ・ウェイツカーハー教授）

報告 吉田恭子 日米カルチャーラル・トレード・ネットワーク (CTN) ディレクター

分析、解説した。

次いで日本の現代演劇にも精通しているポールトン教授は、谷崎の劇作活動を含む演劇との関わりを多角的に紹介した。さらに谷崎自身のコメント、「春琴抄」をはじめとする作品から引用を交えながら谷崎作品を掘り下げて解説。サイモンの演出についても、文楽を彷彿させる人形の有効性をはじめとする作品の見所に言及した。

最後のスピーカーである笈田氏は、西洋と日本の視点や感覚の違いについて、例えば「心」と「mind(マインド)」を比較しながら見解を述べた。氏の長年の演劇活動と多文化生活の洞察に満ちた話は、聴衆を魅了しました。同センター現ディレクター

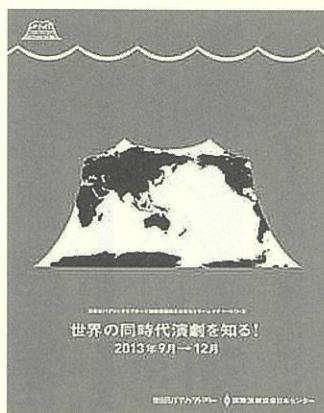
授や生徒たち、デトロイトの日本総領事館関係者や日系コミュニティの方々を含む60名余りの出席者は活発に鋭い質問をし、知識的なディスカッションが続けられた。

また、扇田昭彦氏（演劇評論家）による「マクバーニー演出『春琴』と日本の現代演劇」と題した原稿を英訳し、参加者全員に配付。本作や過去のサイモン演出作品の日本における上演、そのインパクトや観客の反応、さらに日本のフィジカルシアターの担い手たちも紹介した。

### 異文化コラボレーション

異なる文化間のコミュニケーションやコラボレーションには、多くの時間と労力が必要とされる。現場では、常識や既成概念

が教授の完璧な司会進行のおかげで、質疑応答の時間も充分で、他学部の教



が通用しにくい分、本質を追求し、対話や議論を重ねながら理解を積み重ねていくことになる。その切磋琢磨と忍耐の過程においてこそ生まれる新たな発見やアイデアがある。『春琴抄』とともにサイモンのインスピレーションであった『陰翳礼

讚』。サイモンを惹きつけた「陰」が、彼の演出の「光」を当てられて、その美と魅力を浮き彫りにした『春琴』は、演劇における異文化コラボレーションの最も成功したケースの一つとして演劇史に刻まれるだろう。

本公演のプロデューサーであ

## レクチャーシリーズ「世界の同時代演劇を知る！」

平成24年度からスタートした世田谷パブリックシアターとI.T.I.の共催によるレクチャーシリーズ「世界の同時代演劇を知る！」が2年目を迎え、平成25年9月から12月にかけて、「演劇と社会」「世界の同時代演劇」の二つのカテゴリーで5つのレクチャーを開催しました。

このうち、「演劇と社会」では、各回の講師が、現代アート、ドイツと日本の演劇状況の違い、産業政策としての韓国の中文化政策をそれぞれ例にとりながら、旧来の「芸術文化」のあり方が大きく見直されつつある状況が

報告されました。

▽9月10日（火）〔講師〕小崎哲哉「現代アートと演劇—あい

ちトリエンナーレとパフォーミングアーツ」

▽10月9日（水）・10日（木）〔講師〕林立騎「社会の変化と演劇の仕事—ドイツ語圏のモデルから実践・制度・研究のあいだへ」

▽12月11日（水）〔講師〕木村典子「演劇と社会を繋ぐ—韓国演劇の現在と文化政策の試み」

▽11月13日（水）〔講師〕佐和田敬司「『ナ・パジ・ナ・パジ』と現代オーストラリア演劇—核・民族・ストーリー・テリング」

▽11月26日（火）〔講師〕鵜戸聰「アラブ・イスラム世界と現

る世田谷パブリックシアターに改めて敬意を表するとともに、今回のシンポジウムの発案者であるI.T.I.日本センターの永井多恵子会長と曾田修司常務理事、遠方から参加いただいたパネリストの3氏、そして司会から会場設営にいたるまでお引き受け

いたいたミシガン大学日本研究センターのズウィッカー教授と深澤ゆりディレクターに深謝申し上げる。

また、本シンポジウムは、全日本社会貢献団体機関の助成によって実現した。ここに感謝の意を表したい。

# 東京都高等学校演劇研究会、ワンダーランドと

## 新スタート「高校生劇評グランプリ」

当センターでは、高校生と劇場との出会いと発見と対話を促す新プロジェクトをスタートさせました。第1回「高校生劇評グランプリ（G.P.）」は、若い

世代の演劇・劇場への関心を高め、想像力や思考力を伸ばし、表現する力を養うことを目指して次の通り実施します。

▽主催 公益社団法人 国際演劇協会日本センター

▽実施運営 高校生劇評グランプリ（G.P.）実行委員会「公益

社団法人 国際演劇協会日本セ

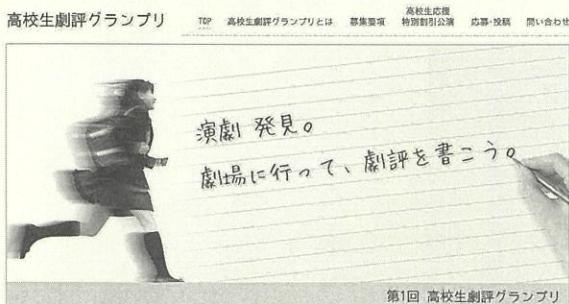
ンター、東京都高等学校演劇研究会、ワンドーランド（小劇場レビューマガジン）】

▽協賛 松竹株式会社、東宝株式会社、公益財団法人都民劇場、

公益社団法人日本演劇興行協会▽協力 歌舞伎座、劇団四季、新国立劇場、新橋演舞場、世田谷パブリックシアター、帝国劇場、株式会社東急文化村、東京芸術劇場、フェスティバル／

演劇 発見。  
劇場に行って、劇評を書こう。

第1回 高校生劇評グランプリ



Copyright © 2014 HS THEATRE REVIEW. All Rights Reserved.

トーキョー実行委員会

### 募集要項

【対象】13年4月以降首都圏の劇場で上演された演劇、ダンス（舞踊）、ミュージカル公演（能・狂言、文楽、歌舞伎などの伝統芸能公演を含む）

【応募資格】日本の高校に在学する生徒（高校に相当する課程を含む。国籍不問）  
【字数】日本語で1200字～2000字

【内容】投稿作品は、自作未発表の原稿に限る  
【投稿】1人1篇。高校生劇評グランプリ公式サイトから投稿（郵送、ファックスともに不可）

【期間】13年（平成25年）11月1日（金）～14年（平成26年）1月15日（水）必

代演劇ウォッチャー、しのぶの演劇レビュー主宰）田中綾乃（三重大学准教授、演劇評論家）、萩尾瞳（演劇・映画評論家）  
▽表彰 最優秀賞1人、優秀賞20人前後。団体賞（優れた成果を収めた高校）  
▽後援 関東高等学校演劇協議会、公益社団法人日本演劇協会  
▽特別協力 こりつち株式会社（五十音順）

▽発表 高校生劇評グランプリ上で3月上旬発表  
公式サイト上で3月上旬発表  
昨年11月から「高校生劇評グランプリ」公式ホームページ＝写真＝がスタートしています。  
<https://www.hs-theatrerreview.jp/>

# —「国際演劇年鑑」調査研究事業

## 紛争地域から生まれた演劇

「紛争地域から生まれた演劇」企画は今年度で5回目を迎える。12月末には5日間にわたり当企画の「パート1」が行われた。また、1月26日には「パート2」として「日本一パレスチナ演劇交流セミナー」を開催した。このセミナーには、パート1で紹介したパレスチナの戯曲『3 in 1』の作者であり

私は戯曲『修復不能』の翻訳と制作補佐（主に海外招聘関係）として企画に関わらせていただき、人、世界、価値観等々、多面にわたり、かけがえのない出会いに恵まれた。

「パート1」では、リーディング公演とトーク、ラウンドテーブル、クロストークを通してパレスチナ、アフガニスタン、アルジエリアの戯曲（日本初演・初訳）を紹介した。

パレスチナで俳優は、どう生きられるか？

『3 in 1』パレスチナからは、イエス・シスターの俳優た

報告 後藤絢子『修復不能』翻訳・本企画制作補佐

パレスチナとは、誰もが演技して日常を生きている土地。俳優とは、演じることを生業としている人間。さらに、この地において演劇とは、一部の人々からすれば無意味な悪習であり、タバコとみなす人もいる。パレスチナ人として日常生活を営むことをさえままならないのに、職業柄、さらに生きにくい状況に身を置く俳優たちが、崩れゆく社会の中で「どう生きられるか」

——『3 in 1』は、2013年11月（公演の一ヶ月前）、テレサ・ポモドーロ国際演劇コンペティション（イタリア）で1位を獲得した。

自らの生きざまをさらして、強く、生き方を模索する表現者としての姿勢は、この賞のコンセプト「裸の演劇 Teatro Nudo」に一致する。

AHRDOのメンバーは、危険と隣り合わせで、演劇を通じて対立する民族同士に理解し合う機会を設けるなど、アフガニスタンの民主化・平和を目指す活動をしている。

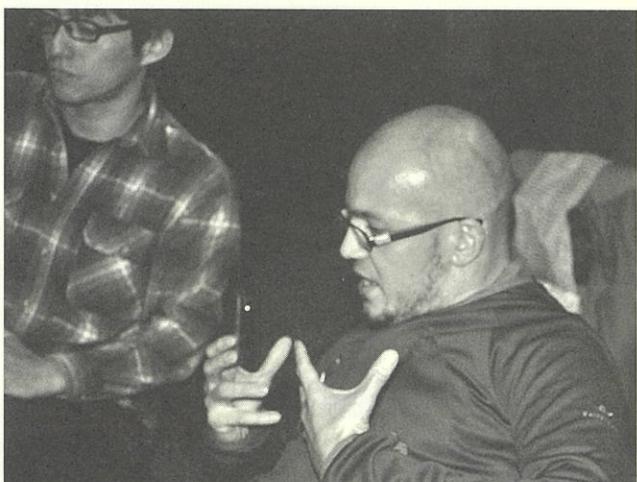
『3 in 1』の終演後には、細かれた『3 in 1』を紹介した。占領下の田和江氏（イスラエル文学・文化、中央大学）、宗重博之氏（劇創設者であり『修復不能』の演出を手がけるヤルマー・ホルヘ・

## パレスチナ『3 in 1』 アフガニスタン『修復不能』 アルジエリア『包囲された屍体』

1月を紹介した。占領下の

ジョーフリーアイヒホルン氏（ボリビア／ドイツ。以下、ヤルマーさん）を迎えた。ヤルマーさんは、AHRDO の仲間のこと、被抑圧者とともに演劇をすること、外国人として共同体ベースの演劇に関わることなどについてお話をいただいた。

ラウンドテーブルには、ヤルマーさんのほかに、大橋宏氏（アジア・ミーツ・アジア代表、劇



写真上は AHRDO (アフガニスタン人権民主主義連盟) の共同創設者で『修復不能』の演出家・ヤルマー・ホルヘ・ジョーフリーアイヒホルン氏と日本語公演演出者の公家義徳氏（稽古場で）。写真下は『修復不能』の舞台

は、上演前には、上場前に廣田淳一氏による作品解説が付され、俳優の身体が多くを語ったことで、観客の理解を助けた。

終演後のラウ

ンドテーブル主宰。過去にアフガニスタンの演劇団体を招聘）と翻訳にご助力をいただいた村山和之氏（南・西アジア文化研究会）を迎えた。お二人ならではの切り口で、ヤルマーさんからも興味深いお話を引き出してくださいました。（\*2）

『アラブの春』を思わせる  
強い現代性

は「2010年末」2011年の「アラブの春」を彷彿とさせる」と話した。この戯曲は複雑な構造で書かれ、ことばは象徴に満ちていて、理解するには決して容易ではないが、23日の公演では、上場前に廣田淳一氏による作品解説が付され、俳優の身体が多くを語ったことで、観客の理解を助けた。

なお、この「紛争地域から生まれた演劇」シリーズは I.T.I 発行「国際演劇年鑑」の調査研究事業の一環として09年から始まつた。「芸術と平和構築」を目指すユネスコ精神に則り、世界の I.T.I 活動との「連帯と絆」を目指している。

撮影 石澤知絵子

## 〔3作品の注釈と補足〕

## (\*1)『3 in 1』

翻訳は柳谷あゆみ氏、演出は杉山剛志氏、出演は木野本啓氏、重盛次郎氏、廣畠達也氏。

## 『3 in 1』のうち、いくつか

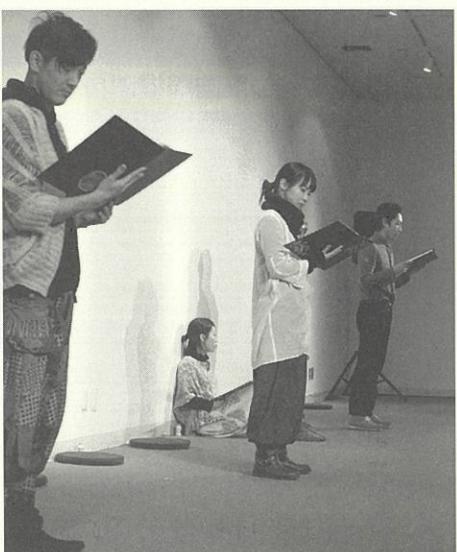
のせりふが12月21日、日刊ゲンダイの「読む演劇」欄で紹介された。なお、本作の上演と「パート2」は、今村沙絵氏をはじめとするピースビルダーズ（平和構築を目指す特定非営利法人で、本部は広島。パレスチナ支部もある）の方々の協力体制のもとに実現した。

## (\*2)『修復不能』

拙訳によるもので、演出は作家義徳氏、出演は小山萌子氏、花ヶ前浩一氏、大谷賢治郎氏、大久保鷹氏、正木ひかり氏。ラバーブ演奏は佐藤圭一氏、映像は高橋啓祐氏。ヤルマーさんは、稽古場にも足を運んでくださった。抗しえぬ敵に愛するものを奪われる悲しみ、わが子の代に平和がないと知りつつも、遠い将来



『3 in 1』の舞台



『包囲された屍体』の舞台

撮影 石澤知絵子

撮影 山口真由子

月20日発行)に掲載された。さらにアメリカの舞台芸術誌PAJ(Performing Arts Journal)も最新号(106号、2014年1月1日発行)で本作(英訳版)を掲載している。

## (\*3)

翻訳は鵜戸聰氏、演

じ悲しみを抱えて生きる人間同じ悲しみを生む悲しみ、同じ悲しみを抱えて生きる人間同士が、民族という溝によつて歩み寄れない悲しみ……。本作は、悲しみで紡がれており、その悲しみは「プレイバックシアター」

上演後、ラジオジャパンより

取材が入り、ヤルマーさんと公

家氏、小山氏、林英樹氏(「紛

争5」プロデューサー)の声と

佐藤氏のラバーブ演奏が一月五

日、アフガニスタン(カーブル

とヘラート)およびインター

ネットラジオで放送された。

本作は昨年9月、「シアター

アーツ」誌56号(2013年9

月)から集めた生の声である。人前

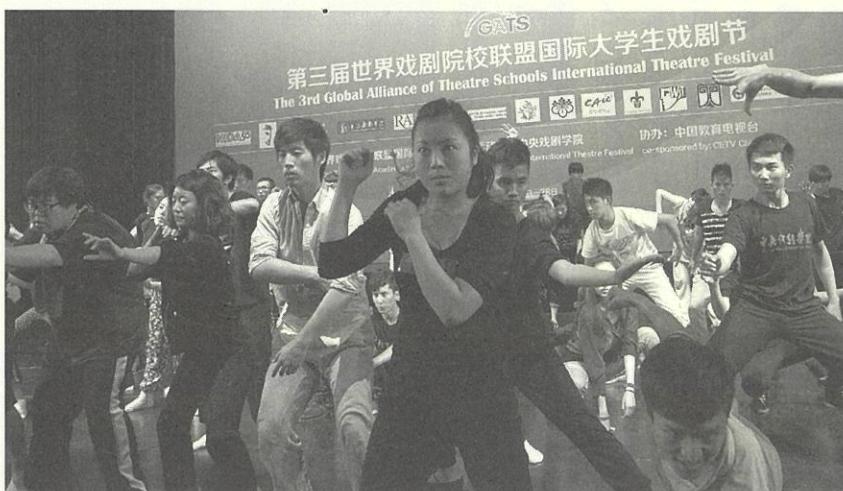
の手法でアフガニスタンの人々

から集めた生の声である。人前

アラブ・イスラム圏の演劇について理解を深める機会として、昨11月には鶴戸氏によるレクチャーが開催された(「世界の同時代演劇を知る!」シリーズ「アラブ・イスラム世界と現

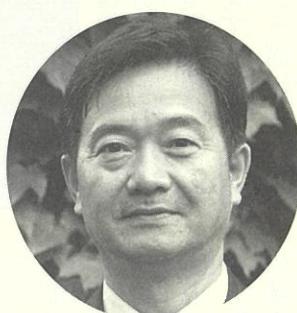
# I.T.I 第3回世界演劇学校フェスティバル

各校の特色、指導教授の個性が發揮されたワークショップ!! 中央戲劇学院北劇場で



世界演劇学校連盟 (Global Alliance of Theatre School 略称 GATS) は、ユネスコ傘下の国際演劇協会 (International Thetre Institute 略称 ITI) 教育センターによって 07 年に設立が提唱され、翌 08 年 9 月、スペインのバルセロナで開催された第 5 回「世界演劇学校学長」会議とマドリードで招集された第 32 回「国際演劇協会」でそれぞれ満票を得て発足した国際機関です。

連盟の活動目的は、グローバルな演劇教育の共同研究、教学経験の交流を推進し、その成果を分かち合うプラットフォームを構築することによって学術的な共同作業を継続させると共に、演劇教育の国際的な情報交換を高次元で促進し、世界の演劇教育事業の発展に寄与することにあります。連盟が行った 8 項目の決議の中、隔年で世界演劇学校フェスティバル (略称 GATS FESTIVAL) の開催が明記され、中国の中央戲劇学院に運営が委託されました。中央戲劇学院はこのフェスティバルのために二つの演劇賞を設けました。最優秀演技賞と優秀演技賞です。最優秀演劇賞を受賞した学生 (中国人学生を除く) には、その技芸をさらに磨くため中央戲劇学院に半年間 (第 1 学期 = 9 月 ~ 翌年 1 月、第 2 学期 = 3 月 ~ 7 月) 留学の資格が与えられます。



報告 刘立濱  
中央戲劇学院  
校務委員会主任・教授

訳 菱沼彬晁

世界演劇学校フェスティバルの第 1 回は 09 年、第 2 回は 11 年、第 3 回は 13 年 9 月 18 日から 28 日まで、いずれも北京の中央戲劇学院で開催されました。舞台公演とワークショップに分かれ、公演はシェイクスピア作品を課題作とし、各国が自由に飛び入り参加できる特色、指導教授の個性が発

揮され、会場は若者らしい熱気で包まれました。

第3回の参加校は中央戯劇学院、桐朋学園芸術短期大学、ブルガリア国立演劇・映画・テレビ芸術大学、ドイツ・エルンスト・ブツシュ演劇大学、韓国中



中央戯劇学院徐翔学長が開幕の挨拶

ある北京市東城区の実験劇場で行われ、中国教育省国際局局长、文化省教育科学技術局長、中国話劇芸術研究会の演劇研究家、専門家らが多数参加しました。アトラクションに中央戯劇学院音楽劇系の学生がメドレーで名場面、名曲を演じ、力のこもった場面展開に盛大な喝采が送られました。

学院音楽劇系の学生がメドレーで名場面、名曲を演じ、力のこもった場面展開に盛大な喝采が送られました。

ア『夏の夜の夢』。各校が洗練された演出と演技で民族的スタイルを競い、独自の解釈を際立たせるなど、日ごろの訓練ぶりを観客に印象づけました。

## 中国・北京

ワークショップは経験豊富な指導教授の腕の見せどころとなり、年々レベルの向上をうかがわせ

る内容となりました。

今回の課題作はシェイクスピア『夏の夜の夢』。各校が洗練された演出と演技で民族的スタイルを競い、独自の解釈を際立たせるなど、日ごろの訓練ぶりを観客に印象づけました。相互の距離と関係を感じ、互いに感應し合い、互いの動きを誘発する感覚の鍛磨と身体的訓練を課しました。

## 中央戯劇学院

琴の古曲の調べと共にワーク

ショップが始まりました。学生たちが想像力を働かせ、音楽に合わせて白雲や流水など自然のイメージを身体で表現するよう

シヨップが始めました。学生たちが想像力を働かせ、音楽に合わせて白雲や流水など自然のイメージを身体で表現するよう

## 他者の存在と空間の認識 「想像力のないところに芸術はない」

各校のワークショップのボ

イントを紹介すると――。

ブルガリア国立

演劇・映画・テレビ芸術大学

この大学の『夏の夜の夢』

公演では舞台の進行に合わせてロープと巨大なネットを駆使した変幻自在の演出が注目されました。

「想像力のないところに芸術

はない」とペトコヴァ教授は強

調し、学生たちの想像力を引き

出しながら豊かな舞台形象を作

されました。ワークショップではまず身体表現力の訓練か

ら始まって『夏の夜の夢』の

課題作は『夏の夜の夢』

開幕式は中央戯劇学院旧校舎

Kojo 教授は「もし、組むべき相手がなければ、一人の独立しあつた個体として演技を成し遂げることはできない」と説き、次々と異なる合図・指示を送り、学生たちが即応の動きを起こすよう求めました。指示のない状態では自ら感覚を研ぎすまし、その場の集団的な行動のリズムを体得するよう指導しました。参加者たちが歩きながら他人を観察し、声を交わすことなく意思を疎通させ、暗黙の了解を成り立たせるプラクティス。お互いが機械仕掛けのように呼応できるよう想像力を鍛錬する指導をグループ別に行いました。

さらに、手の指を用いて水をすくい、水を飲む練習を行いました。水の流れやその不確定な動きを手の指で模倣し、共にして相手の存在を感じ取らせようとする訓練です。

日本・桐朋学園

まず日本人の学生が演技者の



桐朋学園芸術短期大学『夏の夜の夢』の舞台

#### 中央大学

ための身体訓練法を演じて見せ、他校の学生の参加を呼びかけました。身体と呼吸のコントロールを体得しようとするものです。注意力を集中し演技力を鍛えるために、呼吸によって身体に気をめぐらせる方法ということができます。

学生をグループ分けし、注意力を喚起する練習から始まりました。風船を宙に飛ばし、床に落ちないようにします。この後、白楠永教授は学生を国別に分け、指示する目標物に変身するよう要求しました。身体を用いるだけなく声を発し、目標物の声や形、顔の表情や動きを再現させるなど、学生の注意力、平衡感覚を鍛えるだけでなく、観察力や集団行動の能力向上にも役立てようというものです。白楠

永教授は仮面の用い方にについても範を示しました。学生にも面をつけさせ、動物や人間に変身できます。

ウクライナ・キエフ国立演劇・映画・テレビ芸術大学

ワークショッピングのリーダーである佐藤晃子氏は、日本の舞踏をつけて、動物や人間に変身する際の演技を指導しました。二人一組になって互いに両手を合わせ、目を閉じた相手を、もう一人がリードする所作を行います。この訓練は演技者に対して、心の動きをよりよく表現する助けになります。

における伝統的な所作の中に見出した訓練方法を参加者に伝授しました。二人一組になって互いに両手を合わせ、目を閉じた相手を、もう一人がリードする所作を行います。この訓練は演技者に対して、心の動きをよりよく表現する助けになります。

メキシコ

#### ヴェラクルス大学演劇学院

整然とした歩行のリズムあるいは疾走や跳躍の過程で機敏な反応、正確な身ごなしと運動のコントロール能力を鍛錬しました。力の配分やバランス感覚をいかに身につけるか。学生たちは相撲の練習をする中で、力のコントロールについて確かな感覚と手応えを感じ取り、単なる力と力のぶつかり合いではなく、身体の弾力と柔軟さが求められる中、一種の身体的な平衡と内心の平衡を保つ術を身につけていました。

する際の演技を指導しました。

この役割を交代しながら練習を続けます。二人は互いに相手の身体のリズムを感じ取り、双方の動作はよりスムーズに、より調和のとれたものになっていきます。さらにドミトロ・ボゴマゾフ Dmytro Bogomazov 教授は学生たちに地面を踏んでいる感覺を確認させ、運動中に自分

と相手がどう変わっていくかを確認させました。

どのワークショッピング会場も熱気に満ち、教える側も教えられる側も一体となって生氣にあふれ、舞台創造という共通の目標に向けて心を通わせました。他校の教師、学生との交流が深まり、相互に学び合い、それぞれ

高揚させてくれます。その韻律、抑揚、現実を超える想像力、感情の深さ、そこに再現される美しさです。生命と人生に対する詩人の感性、感動が理想的な形で具現化され、読む者の心を純化し、

9月26日午後、昌平新キャンパスの野外劇場で閉幕式が行われ、最優秀演技賞と優秀演技賞

に大きな収穫をもたらしました。日本から来た伊藤巴子氏は「ワークショッピングのレベルの高さに感銘を受けました。日本の若い劇団員にも受けさせてやりたい」と語りました。

9月26日午後、昌平新キャンパスの野外劇場で閉幕式が行われ、最優秀演技賞と優秀演技賞

## 「天地合一」のユニゾン 李白の詩を身体表現



姜若瑜教授

中国伝統の詩は演技、演出を志すみなさんにとって格好の材料です。生命と人生に対する詩人の感性、感動が理想的な形で具現化され、読む者の心を純化し、

演技、演出の訓練は身体から情の深さ、そこに再現される美的境地のすべては、演劇を学ぶ学生が本来備えなければならぬものだからです。

言葉が情感の表現や生命力の表出に行きづると、歌と踊りが息を吹き返します。このセッションは眠つていた身体を目ざめさせ、身体を通して生命力と人間性に内在する美を表現する試みです。このとき身体の内部

のユニゾンが奏でられます。

演技、演出の訓練は身体から始まります。抑圧され、束縛された身体を解き放ちましょう。自分の身体を知り、自分の身体を外的 세계につなぎます。そこで感知した外界のすべてを内的世界に取り込み、次に私たちは

がいわゆる「天人合一」の境地で、人間の精神は直接外界と関係を持つのです。今日は唐代の詩人・李白の『廬山の瀑布を望む』を体感して下さい。「詩仙」李白はまさに「天人合一」の精神を体現した詩人だつたのです。

今回使用する琴の古曲は、皆さんが親しんでいる音楽とはまったくの別物です。中国文化の精髓に通じるものがありますが、旋律は単調で、みんなのお好みに合わないかもしれません。でも、先入観念は禁物です。

李白の詩に入る前に、ウォーミングアップ、自分の体を筆になぞらえ、自分の名前を書くトレーニング、五感を全開にして自分が立っている空間を知覚するトレーニング、5~6人がグループになって自分が好きな位置に立ち(他人からは好きな位置に立たれ)、移動しながら自身を知覚し、また自分のなかで自身を起きた情動を表現するトレーニングなどを行つた。

### 李白『廬山の瀑布を望む』

日は香炉を照らして紫煙を生ず／遙かに見る瀑布の前川に

掛かるを／飛流直下三千尺  
疑うらくは是れ銀河の  
九天より落つるかと

(訳) 太陽が香炉峰を照らし  
出すと、光に映えて紫の霞が立  
つ。この峰の遙か向こうの川に  
滝がかかるのが見える。

飛ぶ流れはまっすぐに三千尺。

天の川が大空のてっぺんから落  
下したのかと思えるほどだ)

①さて、あなたはこの詩から  
どんな印象あるいは衝撃を受け  
ましたか? 詩の内容、情感、  
リズム、韻律、あるいは曰く言  
い難い何か——あなたは体のど

の部分で受けとめましたか。そ  
こを強調して下さい。たとえば  
流れ落ちる滝、銀色に光る無数

の線、あなたの体のどの部分を用  
いて表現しますか?

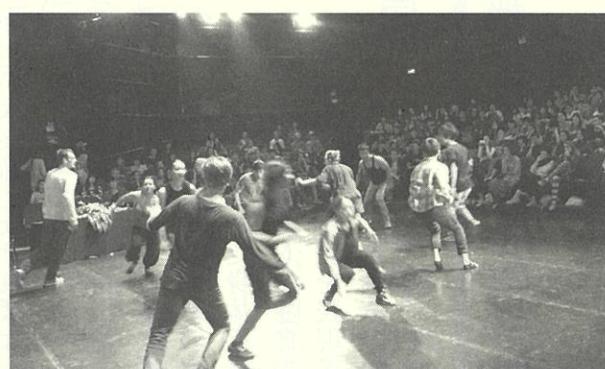
②体で詩を表現するとき、原

文を丸呑みしてはなりません。  
やつたり、太陽の熱が熱いから  
雨が降るからといって手を頭に

といつて手で汗を拭いたりする

のは、演劇のプロのやることで  
はありません。滝の水が線状に

流れ、縦に落ちているといつて  
も、横向きの線で表現したって



中央戲劇学院北劇場でのワークショップ風景

いつこうに構わないのです。演  
劇のプロなら、いかに「オリジ  
ナル離れ」をするかを心がけて  
下さい。太陽、滝、三千尺、銀  
河、紫色の霞——動作は静的で  
あっても動的であつても構いま  
せん。忘れてならないのはあな  
た自身の「気の流れ」と自然の  
息吹きなのです!

③この詩の中に、あなたの体  
が感じる言葉を探し当てたとき、  
動作をしながらその言葉を口に  
して下さい。それはいくつあつ  
ても構いません。順に続けて下  
さい。

④あなたの体と詩の言葉が  
ハーモニーを奏でた感じたとき、  
どの一句でもその詩句を表現し  
て下さい。

総括 このワークショップで

は時間の配分に問題がありま  
した。これまで古詩をテーマにし  
た授業では1ヶ月から1ヶ月半  
の時間をかけていました。以前  
2時間半の講義を香港でしたこ  
とがありますが、叙述を主体に

したもので、練習量も少なくて済み、1時間ほどで詩の内容に入つていきました。どの詩を選ぶかは、厄介な問題です。明快なテーマを選ぶのが無難でしよう。例えば中国の古詩の場合、杜甫の『絶句』をご参考下さい。兩箇の黄鸝(こうり)に鳴き、一行の白鷺(はくろ)青天に上る、窓には含む西嶺千秋の雪、門には泊す東吳万里の船。柳に鳴き、一列の白サギが青空に上っていく。窓には千古の雪がはめこまれ、門には東吳に向かう船がとまっている)

姜若瑜教授略歴 中央戲劇学院演出系教授・演出家。1990年同学院演出系卒。90~94年北京京劇院で演出担当。94~97年ニユーヨーク州立大学演劇・舞踊研究科マスターコースで演技・演出・現代舞踊の振り付け・構成を専攻。98年中央戲劇学院演出系教授就任。2008年同学院演劇・映画・テレビ系教授就任。主要な演出作品はブレヒト『兵士ショベイクの冒險』、ソーン・トン・ワイルダー『わが町』、テネシー・ワイリーアムズ『ガラスの動物園』、スザン・ソンタグ『ベッドのアリス』ほか。

# アジア演劇教育センター(ATEC)と中央戲劇学院

アジア演劇教育研究センター

(Asia Theatre Education Centre  
略称 ATEC) は、日本大学芸

術学部演劇学科と中国中央戲劇

学院、韓国中央大学校芸術学部

演劇学科が中心となり、アジアの演劇系大学における演劇教育の活性化を図り、教職員や専門家のみなならず学生たちを交えた

学術研究や演劇交流を図るために05年10月創設された。

加盟15校と加盟希望20校

創設時は3校のほかに上海戲劇学院、中国戲曲学院、香港演芸学院、シンガポール南洋芸術学院が加わり7校で発足したが、その後桐朋学園芸術短期大学演劇科 ベトナムハノイ国立演劇映画学院、ウズベキスタン国立芸術学院、コロンビアValle Cali大学、韓国青雲大学、韓国西京大学、オーストラリア

報告 戸田宗宏



元日本大学芸術学部演劇学科主任教授  
現中央戲劇学院客員教授  
ATEC秘書長

国立演劇学院、インド国立演劇学院が加わり現在15校の加盟校と、参加希望登録している非加盟校約20校がATECの活動に参加している。

主な活動は、毎年5月の国際フォーラムと隔年ごとに開かれるアジア大学生演劇祭を実施、国際フォーラム論文集やATEC国際交流年鑑を刊行している。また世界の演劇系大学関係者との交流を深めていく必要性から14年から国際フォーラムは隔年毎として開催することになった。ATEC本部は中央戲劇学院内

今年の活動は5月18日（日）から23日（金）、「第3回大学生演劇祭」と「第1回世界演劇教育大会」が北京・中央戲劇学院内で同時開催される。

大学生演劇祭は加盟校による演劇祭で、今回の題は「伝統演劇の現代化」。会場は東城校舎実験劇場とし、上演時間は60分、演出は学生が担当するなど細かい条件が定められている。公演終了後は参加校の学生代表者による講評会が行われる。また教員や専門家による審査委員会が設けられ、ベスト作品賞などを

選考し、あわせて審査結果も発表する。期間中は各大学の教員・専門家によるワークショップを行ったり、参加学生の交流会が設けられる。

世界演劇教育大会は、世界各国の著名な教育者・専門家30名を特別招聘し、45カ国総勢250名の参加を目指し現在準備が進められている。統一テーマは「アジアトウディー」。世紀の演劇教育」。世界的な著名人による基調講演をはじめ、シンポジウム「演劇教育の現状と課題」や分科会「これらの演劇教育」を実施、さらに教員・専門家の懇談会が予定されている。「世界演劇教育大会」は新校舎の昌平校舎で行われる。

今年5月18日～23日、北京の中央戲劇学院で  
大学生演劇祭と世界演劇教育大会を同時開催

## 223<sup>rd</sup>の新キャンパス



中央戯劇学院昌平新キャンパス正面



正面からのメイン通路＝右手が実習棟



実習棟の中のオープンエア劇場



実習棟の舞踊教室



新キャンパス内を流れる川

新校舎は現在の東城校舎から約24キロある文教・産業などの再開発地・昌平区にある。車で約40分かかるが、来春開通(予定)する地下鉄を利用すれば新校舎まで約30分くらいとか。敷地面積は22万3333平方メートル(東京ドーム約5個分)、東城校舎敷地の約13倍にあたる。キャンパス内には川が流れ、事務棟、教室棟、実習棟、劇場棟、図書館・芸術資料館棟、食堂棟、教員・学生棟が整然と立

り、中でも舞踊教室の広さや高さは申し分ない。さらに試演会ができる設備が整った2つの大きなブラックボックスが完備されている。現在約400名収容できるオープンエア劇場がで

り、実習室合わせて264室あります。徐院長には2カ所の同時通訳会議室が設けれ、また一般教室

や実習室合わせて264室あり、中でも舞踊教室の広さや高さは申し分ない。さらに試演会ができる設備が整った2つの大きなブラックボックスが完備され

きなシアターオリンピックができるオーブンエア劇場がで

きているが、15年までには大中小あわせて6つの劇場が完成するそうだ。これは昌平地区を文化的な地区にしたいという政府や昌平地区の行政や住民の期待が大きいだけに、これからの中院の役割を見通した事業計画とも言える。

### 秋にシアターオリンピック

徐院長の時代になりATEC創設を機に海外交流をより位置づけ、数多くの教職員をアメリカ・イギリス・フランスなど海外研修視察団として派遣、教職員の意識改革を行つた。お蔭で意識の高い教職員の献身的な協力で成り立つてゐる。特に外事課員は英語・ロシア語・フランス語・韓国語・日本語などに対応結果、海外の優れた専門家が招聘でき、世界的な演出法や表現法を積極的に導入し学生の教育指導にあたつてゐる。こうした劉立濱書記長と徐翔院長の演劇系大学としての運営・教育方針を明確化し、たゆまぬ努力があればこそ社会教育部・体育部からも高く評価され、政府と密接な関係が築き上げられてゐる。14年秋には「シアターオリンピック」が中国で開催されるが、その中心的な役割は中央戯劇学院が担つてゐるのかもしない。ATEC等の活動を通じて今や世界の演劇系大学関係者や専門家が集まり世界の演劇教育の中心となりつつある中央戯劇学院の動向は、目が離せない。

# I.T.I.本部理事会に出席して

――日本センター常務理事・事務局長 曽田修司



I.T.I.の本部理事会（5月5日、ラ・ママ・ウンブリアで）  
左から3人目がラメンデュ・マジュムダ I.T.I.会長

昨年5月3～5日にI.T.I.の本部理事会(EC Meeting)に初めて出席した。理事会は、19人の国際理事と事務局長のトビアス・ビアンコネ氏の20名で構成されている。

会議では多種多様なアジェンダ（議題）について討議する。理事会の重要な議題のひとつに、前年度の収支決算の審議がある。各国センターのうち、本部への納付金を数年分も納めていないセンターもかなりあり、それらに対しても除名措置が検討され、厳しい現実をいきなり目の当たりにすることになった。

当然のことだが、各国センターにはそれぞれ異なった事情がある。I.T.I.の活動だけを行う専業機関ではないところも相当にあるし、政府機関との距離もさまざまである。国情の違いもあるし時代による変化もある。

そのような事情によるのだろうが、近年、I.T.I.本部の収支状況は危機に瀕しており、累積赤字が10万ユーロに上っていたという。近年のビッグニュースは、アラブ首長国連邦(U.A.E)のフジヤイラの首長がスponサーとなつて何とか積年の赤字を解消することが

（議題）について討議する。理事会の重要な議題のひとつに、前年度の収支決算の審議がある。各国センターのうち、本部への納付金を数年分も納めていないセンターもかなりあり、それらに対しても除名措置が検討され、厳しい現実をいきなり目の当たりにすることになった。

始めたとのことだった。まさにオールマニーさままであるが、国際機関をめぐる現実のポリティクスは文化交流分野においてもかくも生々しい。

出席している理事は、ほとんどが互いにファーストネームで呼び合ふ親密な雰囲気だった。私は今回が初めての参加だったにも拘らず、みな親切に話しかけてくれてありがたかったが、私も含め、アジアから出席していた韓国の2人（いずれも米国に留学歴がある）はややスタンスが異なるように感じられた。

日本センターにとつて特に重要な議題として、内村賞の審議があつた。今回は、2011～12年の活動が選考の対象となり、候補3作のうち、筆者も加わった審査の結果、ベルギーの「ヒロシマ」という作品への授賞が決定した。日本センター（筆者）からは、13年3月の理事会で内村賞への資金拠出を今後も継続することを決定したと報告し、大いに歓迎された。

I.T.I.の次の世界大会は、13年秋にキューのハバナで開催が予定されていたが、これは延期になり、14年にアルメニアのエレバ

愛を知り、淑女になる。運命に生き、女王になる。彼女の名は——エリザベス

レディ

日本・歌詞：ミヒャエル・クンツェ 音楽・編曲：シルヴェスター・リーヴァイ  
演出・衣装：小池修一郎

ロビン・フレイター レディ・ベス 花總まり  
山崎育三郎 加藤和樹 平野綾  
ロジャー・アスカム 山口祐一郎

Lady Bess

Photo by Leslie Kee Art direction & Design by Enlightenment  
〔プレビュー公演〕4月11日(金)・12日(土)  
料金(税込)S席:13,000円 A席:8,000円 B席:4,000円 ★プレビュー公演 S席:10,500円 A席:7,000円 B席:3,500円  
チケット 帝劇  
好評発売中!!

製作：東宝  
協賛：講談社新聞  
監修：舞台脚本家 アントニオ

## I.T.I. のホームページが一新されました

かねてより準備を進めていた I.T.I ホームページのリニューアルが完了し、昨年 11 月からお披露目されています。

トップページには、近年の I.T.I の活動を紹介する写真が大きく掲載

(複数の写真がオートリピート式で現れます) されている他、I.T.I 関連の最新ニュースや、事業紹介、団体概要紹介などのタブがスッキリと配置され、「見やすい、キレイ、わかりやすい」と評判をいただいている

ます。

会員消息		ご逝去
岩淵 達治	大塚 道子	
伊藤 洋	瑞宝中綬章	
井上八千代	紫綬褒章	
草笛 光子	第 48 回紀伊国屋演劇賞個人賞	
黒柳 啓子	第 38 回菊田一夫演劇賞特別賞	
下山 久	第 63 回芸術選奨文部科学大臣賞	
仲代 達矢	2013 年度朝日賞	
坂東玉三郎	フランス芸術文化勳章「コマンドゥール」	
藤城 清治	第 36 回巖谷小波文芸賞	

(五十音順・敬称略)

入会  
青柳 敦子 (演出)  
テアトル・エコー  
武中 雅人 (製作)  
松竹株式会社  
三輪 えり花 (演出)

退会  
赤木 春恵 貝山 武久  
國吉 和子 河野 勝則  
高橋 英樹 鳥居 清光  
山崎 正和 塚口 麻里子  
新井 知行 大原 典子  
寺崎 裕則 川村 尚敬  
光瀬名瑠子 谷 桃子  
本地 陽彦 畑野 一恵

(2013年1月～12月)

日本センター  
新・I.T.I 公式サイト URL <http://iti-japan.or.jp>

(© 国際演劇協会日本センター 2014)

**I.T.I.** 第 124 号  
発行 2014 年 1 月 31 日発行  
公益社団法人国際演劇協会日本センター  
発行人 永井多恵子 編集人 曾田修司  
住所 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1 国立能楽堂内  
Tel03-3478-2189 Fax03-3478-7218  
Email:mail@iti-j.org  
URL <http://iti-japan.or.jp>

### 後記

昨年 7 月に、ここ数年にわたる懸案であつた公益社団法人への移行が無事実現しました。会員の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。11 月にはもうひとつ懸案であつた公式ウェブサイトのリニューアルも実施しました。これからも、経営力アップのための取り組み（会員増、スタッフの拡充、財政基盤の強化）を続けてまいります。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。（曾田）

国内外で不穏な情勢がかもされており中「芸術と平和構築」「連帯と絆」のユネスコ精神をあらためて考えたい。（菱沼）



松竹株式会社

歌舞伎座新開場柿葺落  
二月花形歌舞伎 2/1(土)～25(火)  
歌舞伎座新開場柿葺落  
鳳凰祭三月大歌舞伎 3/2(日)～26(水)  
歌舞伎座新開場一周年記念  
鳳凰祭四月大歌舞伎 4/2(水)～26(土)

東京都中央区銀座四一十二一十五 地下鉄「東銀座駅」直結  
電話〇三(三五四五)六八〇〇(代)